司会（道場親信）：ただいまから和光大学現代人間学部現代社会学科主催の公開シンポジウム「女性学の挑戦――和光大学35年の経験から」を開催いたします。

本学科では毎年、文化企画と銘打ちまして、シンポジウムやコンサートなどをこれまで実施してまいりました。今年度は、日本で最初に「女性学」の講座が置かれた和光大学の35年の経験を振り返りながら、この学問のこれまでとこれから、いま抱えている課題などについて検討していきたいと思っております。

はじめに４人の講師の方のご紹介をいたしたいと思います。

まず、基調報告を担当される井上輝子さんは、長年にわたって本学の教員をされておりまして、今日のテーマである女性学講座を和光大学で始めた創始者でもあります。1942年生まれ。1970年代初頭のウーマン・リブ運動に参加する中で女性学に出会い、1974年、和光大学に女性学講座を開設されました。井上さんの歩みにつきましては、このあとの基調報告でお話しいただけると思いますので省略いたします。

続きまして、阿部裕子（ひろこ）さんは、NPO法人「かながわ女のスペースみずら」の設立メンバーにして理事をされております。阿部さんは1950年生まれ。和光大学人文学部人間関係学科出身で、女性の人権問題に取り組みながら1990年に「みずら」を設立し事務局長を務められました。現在は家庭裁判所の調停員をされていますきょうは、阿部さんご自身の軌跡と「みずら」での取り組みについてお話しいただけると思います。

諸橋泰樹さんは、フェリス女学院大学教授で1956年生まれ。社会人を経て和光大学人文学部人間関係学科を卒業。専攻はマスコミ論、社会学、女性学で、詳しい履歴につきましてはご本人のお話しの中で語っていただけるということですので、ここでは省略させていただきます。

最後に千田有紀さんは武蔵大学教授で、1968年生まれ。東京大学で上野千鶴子さんのゼミの出身です。東京外国語大学に勤められた後、現職に就かれています。専攻は家族社会学、社会学理論、ジェンダー・セクシュアリティ理論などです。

最近マンガ家のカラスヤサトシさんとの共著『喪男（モダン）の社会学入門』（講談社、2010年）を出版されました。

司会は私、道場親信が担当いたします。社会運動史を研究しておりますので、きょうは運動としてのリブと学問としての「女性学」の歴史的・実践的つながりに関心をもって参加しております。

［和光大学現代人間学部現代社会学科准教授］